

日本人会 軽音楽同好会 よもやま語 ～令和の軽音Life～

Logo by Ishikuri Yoshie

第3回(最終回) 「これからのJAS軽音」

娯楽部 軽音楽同好会

3回に渡って書かせていただきました本連載ですが、いよいよ最後となりました。3ヶ月に亘りお付き合いいただきありがとうございました。最終回の今回は「これからのJAS軽音」というテーマで書かせていただきます。とはいっても何かと先行き不透明な今の時代、もしかしたら1年後は全く違う世界が広がっているかもしれません。その時になって「言っていたことと違うじゃないか」と責められても私は全力で逃げますので、そのつもりで気楽に読み進めていただけますと幸甚です。

1.情報共有のあり方

一昨年(2019年)までは定期的な総会を日本人会スタジオで開催し、多い時は30人くらい集まって新加入の方の自己紹介、年間の行動予定確認、会計報告、意見交換などを行い、その後ラウンジに移動して懇親を深めていたわけですが、仮にフェーズ3が緩和されたとしても何十人がスタジオ等の密閉された空間で集まることはニューノーマル時代にはふさわしくないかもしれません。引き続きSNSを活用したオンラインでの情報共有形態が主流になると思われます。

昨年のフェーズ2までを通じて何人のメンバーが公私共にオンライン会議のやり方に精通したのは良い産物でしょうか。とはいえもちろん直接会って交友を深めるのが一番ですよね、人間ですもの。



果たしてこれで本当にまじめに議論できるのか甚だ疑問だ
ぶれない骨太な精神力が問われる

2.進化系オンラインコラボ?

前号でお話した通り、JAS軽音では沢山のコラボ動画を作っています。この号が出る頃には終わっているストリーミングライブイベントですが、いずれにしても基本は事前に作成した動画の発表です。

当初は「同時演奏セッション」も試みました。これはインターネットを通じてそれぞれの自宅からいっせいのせ(昭和の香り)で同時に演奏し、あたかも一緒にスタジオで演奏を楽しんでいるような体験がしたいという目的でした。しかしながら個人が持っている設備ではどうにも限界があるということが分かりました。仮にインターネット環境が完璧でも、個人宅にあるコンピュータの処理速度的にどうしてもコンマ何秒のズレが生じてしまうようです。

今後このあたりを解決したマシンが出来て「思いついたらその場でコラボ」な時代が来ると面白いですね。

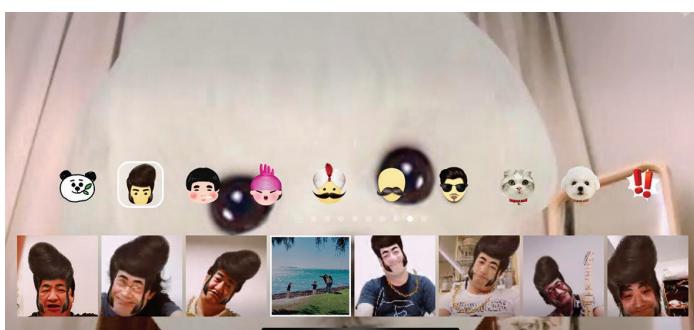


とっつきにくそうな画面を操作するメンバー
(難しそうに見えるが、それほどでもないかもと思われる
のは画像に写りこんでいるビールの缶のせいか)

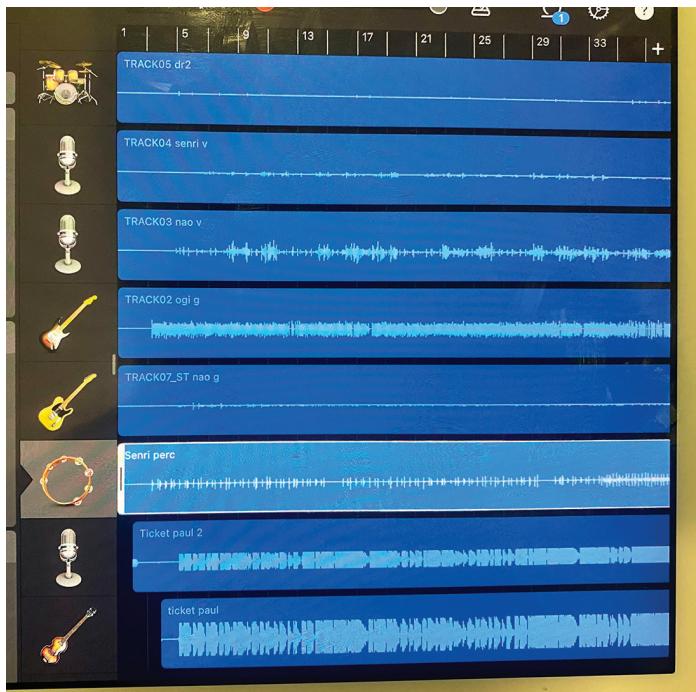
ということで同時演奏へのハードルはまだまだ高そうです。しかしながら以前では考えられなかつたようなことも出来るようになっています。国境を越々と越えたコラボです。

お互いが同じアプリケーションを使っていれば演奏したデータファイルの送受信だけで完璧に曲に演奏がシンクロするのです。

海外にいるメンバーに元の演奏ファイルを送り、それを聴きながら個別演奏してもらい、そのデータを送つてもらい元の演奏ファイルにコピー&ペーストすれば何の調整もなく、さも一緒に演奏しているように聴こえるのです。隣町も地球の裏側も同じ距離感というのは新しい感覚です。



もちろん以前からプロの方々は高機能のシステムを使ってこのようなことをしていましたが、個人が購入するコンピュータやタブレットに同梱されている無料アプリで誰にでも出来てしまう現代は本当に素晴らしいと思いました(あまりに感心して小学生の作文みたいになってしまいました)。



ソフナーに寝転びながら音楽プロデューサー気分でクリック



離星したメンバー(左)からファイルを送ってもらってのコラボ
(国が違ってからの方が仲良くなったのは内緒だ)

3. ライブ活動

軽音メンバーたるもの、やはり人前でパフォーマンスしてこそです。じっくり練習した楽曲を人前で演奏し拍手を受ける快感は、ステージに上がる前の心地よい緊張感を含めて一度経験したらやめられるものではありません。

シンガポール日本人会3階には200名収容できるオーディトリウムがあります。グランドピアノを含めた音響設備も照明設備も素晴らしい、このステージで演奏することはメンバーにとっては一つの醍醐味です。また、2021年1月時点ではまだクローズしていますが4階のラウンジでの演奏はとても楽しいものです。何より、コンサート会場ではありませんから飲食しながら心地のよいソファに身を沈め、リラックスして聴く側も演奏者も一緒に楽しめます。どちらも清潔な日本人会の中の設備であり衛生面や安全面でも心配のない環境での演奏ができます。



2019年7月ラウンジライブより
(扇子を持つと踊りだしたくなるというのは日本古来の
土着宗教と何か関係があるのだろうか、それとも
彼女たちが単にバブルの時代に日本にいたからだろうか)

しかしながら、今後のニューノーマルの時代では大人数が集まつてのイベントはまだまだ推奨されるものではないかもしれません。

ですので、ステージでの演奏の醍醐味とスリリングな生演奏は観たいが感染対策はしたい、という要望を組み合わせるという意味で「無観客ライブ」が主流になるかもしれませんね。これは、たとえばオーディトリウムで実際に生演奏はするが、それをウェブカメラで生中継してインターネットでライブ配信するというものです。

近年も観客が熱狂したライブ会場から生中継というのではありますが、無観客となると、曲間のトークの間なども白々しくならないようにバックに低く何か音を流しておくなど工夫が必要でしょうし、ボーカルがオーエーと言つて観客がそれに続きオーエーと言う(こう書くと結構間抜けです笑)コール&レスポンスも空席に向かってやるわけにもいかず、何より観客のリアクションが分からないので演奏者も盛り上がりにくいかかもしれませんね。拍手喝采も聞こえないのに再登場して「アンコールありがとう!」なんて漫才のネタにもなりません。ですので定時に始まりアンコールなしの定時で終わるでしょう。ということは、その後のご家族と落ち合っての食事の予定にも響きませんね!ビバ、家庭に優しいJAS軽音!

さて、最終回いかがでしたでしょうか。JAS軽音はこれからも進化していきます。このようなお話をまた出来るよう常にメンバー一同アンテナを高くして活動を続けていきます。執筆の機会をまたいただければ、の話ですが(笑)。

最後になりましたが、今回このような機会をいただけたことをシンガポール日本人会に非常に感謝いたしますし、南十字星編集担当の方にもとても感謝します。

ではまた。ロック!

文責・写真: 娱楽部 軽音楽同好会
桑原 隆(ニックネーム:おぎ)

通常、毎週末土曜の19時より日本人会スタジオ2(2F)にて練習しています。ただし現在の新型コロナウイルス(COVID-19)の状況もありますので不定期となっています。お問い合わせは右のQRコードから軽音楽同好会上の連絡先よりお願いします。



日本人会の
軽音楽同好会ページ